

第5章

家庭との連携

第5章 家庭との連携

1 家庭との連携のポイント

子どもにとって、心の礎は家庭にあります。教育基本法（*7）では、「保護者は、子の教育について第一義的責任を有するもの」と明示しています。

港区が目指す「幼児教育」の推進理念である「幼児期の生活に豊かな学びを保障する」ためには、保育園・幼稚園・認定こども園・小学校が家庭と連携し、協力関係を築き、ともに子どもを育てていくことが大切です。

保育士や教員は、日々の教育活動において一人ひとりの保護者と信頼関係を築くことはもとより、保育士や教員が自らの専門性を高め、「子どもにとって」の視点から、幼児期の育ちと学びについて保護者に分かるように発信し、説明することが求められます。

保護者が我が子の小学校生活への適応に関する悩みや不安を抱え、小学校入学を前にして焦ることなく、どの保護者も我が子の入学に期待をもち、小学校へ送り出すことができるよう、家庭との連携のポイントや取組例を記載しました。

保育園・幼稚園・認定こども園・小学校、家庭がその役割を十分に理解し、それぞれが責任を果たすことが、子どものよりよい発達や成長を促します。

(1) 「三つの力」を視点にした家庭との連携のポイント (P58～59)

「三つの力」を視点にした家庭との連携のポイントをまとめています。保育園・幼稚園・認定こども園における実践例1から4 (P44～51) の「家庭教育とのつながり」とリンクしています。

(2) 学級懇談会における工夫 —園の取組例— (P60～65)

ここでは、園の学級懇談会における工夫例を挙げています。園で行われている学級懇談会の際に本資料を保護者に配布し、園での指導について理解を促すとともに、家庭において、子どもとの関わりのヒントになる手がかりを掲載しています。

本資料は、学級懇談会に限らず、保育園・幼稚園・認定こども園・小学校では、さらに個人面談や降園時の保護者との関わり、保護者会等、様々な機会に活用することが有効です。

*7 教育基本法

(家庭教育)

第10条 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

P61 からの「家庭で配慮していただきたいこと」の欄には、やがて見られる姿として「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」が記されています。
保護者会や懇談会等での保護者への説明の際に使ってみましょう。

保護者とともに子育ての
楽しさや子どもの成長を
感じられるように。

子どもにとって
連続性のある生活と
なるように。

子どもたちに、
園で経験してほしいことは、
〇〇、△△、□□……です。

では、ご家庭では、どのようなことに
配慮するとよいでしょうか？
一緒に考えてみましょう。

できることから
始めてみましょう。



(1) 「三つの力」を視点にした家庭との連携のポイント

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
		5歳児前期 年長組としての自覚をもち、興味をもったことを試行錯誤しながら追求する時期					5歳児中期 集団の中で幼児同士が関わりを深めながら、自己を十分に発揮する時期				
生活する力	○自分のことは自分です ○健康で安全な生活をする ○体を十分に動かし、進んで運動しようとする	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの始末をする姿を見守ったり、自分でしようとする意欲や思いを認めたりし、我が子が自信をもって行動できるような関わりを促す。 好き嫌いなく食べることやバランスのよい食事をとることが体によいことを知らせ、苦手な食材が少しでも減るよう食事内容を家庭でも心がけて工夫してもらう。 					<ul style="list-style-type: none"> 時間を意識して自分なりに見通しをもって行動することの必要性を伝え、家庭でも時間の感覚がつかめるような関わりを促す。 「やったことがない」「やりたくないからやらない」というのではなく多様な体の動きを楽しんだり、多少苦手なことにも挑戦したりできるよう、遊びや生活の中で体を動かす機会を大切にしよう伝える。 				
	○好奇心や探究心をもってものとかかわる ○感じたこと・考えたことを言葉で伝える ○文字や数量などの感覚を豊かにする	<ul style="list-style-type: none"> 先回りして知識や言葉等を教えるのではなく、具体的な遊びや生活の中で体験を通して理解することの大切さを丁寧に伝え、家庭と共有する。 幼児が不思議に思ったことや感じたこと、考えたことを受け止め共感したり、一緒に面白がったりして、幼児の発想や知的好奇心を大切にすることを伝える。 					<ul style="list-style-type: none"> 園であった出来事や心を揺さぶられたこと等を親子で会話する時間や、絵本等を我が子に読んで聞かせる時間を意識してつくり、親子の心の通い合いを十分に楽しむよう働きかける。 遊びや生活の中で実際に体験していることが、小学校の学習や生活の基盤になっていくことを園での具体的な姿を通して分かりやすく伝え、家庭生活でも実体験を豊かにできるように促す。 (P44 実践例1「リレーごっこ」) 				
	○あいさつをする ○人とかかわる ○きまりや約束を守る	<ul style="list-style-type: none"> 友達と関わる中で様々な感情体験をすることで育つものについて理解し、経験していることを受容的な構えで支えてもらうよう、働きかける。 人に対してしてはいけないこと、言っではいけないことなど、大人が善悪の判断の基準をしっかりと示し、園と家庭とで価値観を共有する。 					<ul style="list-style-type: none"> 降園後の時間や個人面談等で個々の幼児の具体的な成長や課題を共有し、幼児が自信をもって行動できるように支えてもらう。 幼児同士の意見の相違やトラブル、葛藤等の体験が、相手の気持ちに気付いたり相手を思いやったりするよい機会となるよう、園と家庭とが情報を共有し、幼児の気持ちに寄り添った関わりを促す。 (P44 実践例1「リレーごっこ」) 				

1月	2月	3月	4月	5月	6月～
5歳児後期 小学生になることに期待をもち、自信をもつ時期			1年生入門期 新しい集団や環境に慣れ、自分の思いや考えを表現していく時期		
<ul style="list-style-type: none"> 自分で持ち物や衣服の準備、後片付けをすることが、習慣化するような関わりを促す。 起床時刻、就寝時刻、食事時間を一定にするなど、家庭でも生活リズムを整え、親子で実践するよう働きかける。 (P46 実践例2「もうすぐ集まる時間だよ」) 		幼児期の 終わりまでに 育てほしい姿 健康な 心と体 自立心 協同性	<ul style="list-style-type: none"> 自分の持ち物を自分で用意している姿を見守ってもらうとともに、時間割に沿って忘れ物がないかを一緒に確認してもらう。 時間を意識し行動に見通しがもてるよう、起床時刻、就寝時刻等、家庭でも生活リズムを整え、時間に余裕をもった生活をするよう働きかける。 		
<ul style="list-style-type: none"> 文字や数量への関心をとらえて、名前（ひらがな）の書き方に偏らず、鉛筆のもち方、姿勢などを意識した関わりや、小学校での学習に期待がもてるような関わりを促す。 幼児が自分の言葉で伝えようとしている姿を受け止めながら、相手に伝わるような筋道を立てた話し方、状況に応じた言葉の使い方を確認したり、保護者自身も丁寧な言葉遣いを意識したりするなど、親子での実践を働きかける。 (P48 実践例3「園の思い出を振り返り、みんなで話し合おう」) 		道徳性、 規範意識の 芽生え 社会生活との 関わり 思考力の 芽生え 自然との関わり・ 生命尊重	<ul style="list-style-type: none"> 新しい生活や学習に対する不安などを和らげ、安心して学習に向かうことができるよう、親子の時間を大事にもらう。 宿題やノートなどを見ながら、学校で学習してきたことについて話を聞いたり、学習の定着を確認したりする関わりを促す。 		
<ul style="list-style-type: none"> 他児と比較せずに、我が子らしい成長の姿を見付けて、よさを認め、幼児にとって自信となるような関わりを促す。 多少の葛藤やつまづきがあってもいろいろな友達と関わって遊ぶことの楽しさ、自我を抑制することの必要性など、集団による教育のよさや体験の価値を伝え、理解を図る。 (P50 実践例4「みんなで劇遊びの準備をしよう」) 		数量や図形、 標識や文字 などのへの 関心・感覚 言葉による 伝え合い 豊かな感性 と表現	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな園から入学してくるということを前向きにとらえ、教師やいろいろな友達との新たな生活に期待がもてるよう、学級便りや懇談会等で学級経営の方針を分かりやすく伝える。 学校での出来事が家庭での話題となるよう、親子のコミュニケーションをとってもらう。 		


(2) 学級懇談会における工夫 一園の取組例一

5歳児1学期(4月~8月)

生活する力

発見・考え・表現する力


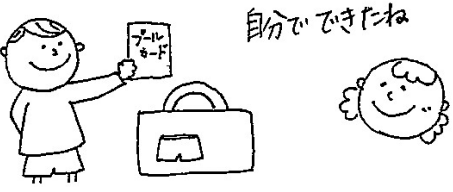





かかわる力

具体的な幼児の姿	園での姿	教師のかかわり
一日の見通しをもちながら生活を進める		<ul style="list-style-type: none"> 進級した喜びや年長児としての自覚をもたせることができるよう、ロッカーや靴の置き場所を自分たちで決めたり、当番の内容を考えたりするなど、自分たちで生活を創りだす機会を意図的につくる。 次の活動や翌日のお楽しみなど、期待をもって過ごせるよう、1日の予定表やカレンダーを活用する。
進んで戸外に出て遊ぶ 水に親しみ、プールでも楽しんで遊ぶ (プール遊びの時期)		<ul style="list-style-type: none"> 体を動かす遊びを積極的に取り入れる。 水に親しみながら、自分なりのめあてをもって挑戦できるよう、一人ひとりのめあてを把握し、見守ったり励ましたり手助けしたりして自信につなげる。 友達の動きにも気付くことができるよう、相手を意識させることで、挑戦意欲が高まるようにする。
食事の準備の仕方は定着しているが、個々に食べ終わる時間が異なる		<ul style="list-style-type: none"> 一定の時間内(約30分程度)には食べ終わるように目安を設定する。 食事時間中は、大きな声を出して話をしない、正しい姿勢を保ち、箸・スプーンなどの食具を正しく持つなど食事のマナーの定着を図る。
自分の思いや考えを話しながら友達と一緒に遊ぶのが楽しくなる		<ul style="list-style-type: none"> 話し言葉による理解力と豊かな表現力を伸ばしていけるように、伝えたい気持ちを受け止めて、言葉にするのを待ったり、伝え方を知らせたりする。 様々な表現の方法を実態に応じて提案し、思いや考え、したいことを実現できるようにする。
遊びの中で、数や文字に関心をもつようになる		<ul style="list-style-type: none"> 物と数の概念を、遊びや生活の中での体験を通して分かるようにする。(「1対1対応」など) 遊びや生活の中で必要感から大小、長短、高低、軽重などに関心をもてるようにする。 書いたり読んだりすることにつながるまでの遊びや生活を大切に。 (出欠調べ、栽培物の成長の様子や収穫、しりとり、逆さ言葉遊び など)
3・4歳児の世話をすることを通して、年長組としての自覚をもつ		<ul style="list-style-type: none"> 年下の子どもに対して、優しい気持ちをもって接している姿を認める。 年下の子と関わろうとする気持ちがあるがどうしたらよいかわからない幼児には、具体的な関わり方を知らせていく。
入園式、離任式、誕生会など、園の行事に取り組む意欲が高まる		<ul style="list-style-type: none"> 学級の友達と会の係を決め、自分たちで準備をしようとする姿を認め、後押しをする。 友達の前で話す機会を取り入れ、できたという自信につなげる。

<幼児期の終わりまでに育ってほしい姿>

健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え

*家庭で配慮していただきたいことの欄に□で記載しているのは、幼稚園教育要領等に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」です。この姿は特に5歳の後半以降に見られるようになる姿で、一つの目安です。子どもの発達には個人差があり、全員に一樣に見られる姿ではありませんが、各家庭で、いずれこのような姿につながることを意識するようにしてください。







予想される家庭での姿	家庭で配慮していただきたいこと
	<ul style="list-style-type: none"> • 時間にゆとりをもって、登園し、園までの道のりの親子の会話を楽しみましょう。 • 年長組になったうれしさを受け止め、自分でしようとしている姿を認め、見守りましょう。一方で、不安を感じる姿が見られたら、受け止めていきましょう。 • 物の使い方、片付け方等、家でのルールを子どもと一緒に決め、自分で整理整頓ができるようにしましょう。 <p style="text-align: right;">自立心</p>
	<ul style="list-style-type: none"> • 砂や泥で汚れても気にしないで遊べる、動きやすい服装で通園しましょう。 • プール遊びに必要な物（プールカード等）を毎日忘れないように、親子で一緒に準備をしましょう。 • 健康に気を付けて、毎日プール遊びができるようにしましょう。 • 休日には親子で公園等に出かけ、自然の中で、身体を動かして遊びましょう。 <p style="text-align: right;">健康な心と体 自然との関わり・生命尊重</p>
	<ul style="list-style-type: none"> • 栄養バランスに気付けさせ、少しずつ苦手な食材も食べる機会をつくりましょう。 • 楽しい雰囲気の中で一緒に食べながら、箸の持ち方や姿勢、食べ方を丁寧に知らせていきましょう。 <p style="text-align: right;">健康な心と体</p>
	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもが言葉で伝えようとする気持ちを大切に、言葉が出てくるのを待つようにしましょう。 • 日常生活の中で大人が会話のモデルとなりましょう。「きれいなチューリップが咲いているね」「夕焼けが光っているよ」など、子どもの話をじっくり聞いて会話を楽しみましょう。 <p style="text-align: right;">豊かな感性と表現 言葉による伝え合い</p>
	<ul style="list-style-type: none"> • おやつを等分に配る、エンジンを4つに切るなど、生活における手伝い等を通して、子どもが数や量を意識できるようにしましょう。 • 少しずつ平仮名が読めるようになる姿がみられるようになりますが、子どもが情景を想像しながら話のイメージをもてるよう、引き続き、絵本を読んであげてください。絵本を読んでもらうことで、正しい姿勢を保つ、話を聞くなどの構えが学習へつながっていきます。 <p style="text-align: right;">数量や図形 標識や文字などへの関心・感覚</p>
	<ul style="list-style-type: none"> • 年長組としての3・4歳児との身支度や片付け、手伝いを通して、子ども自身が成長したことを感じるができるように、「〇〇組は園のお兄さんとお姉さんだね」「〇〇組になると、こんなことができるようになるのね」など声をかけましょう。 <p style="text-align: right;">自立心</p>
	<ul style="list-style-type: none"> • 行事への取組は、当日までの過程がとても大切で、友達と共通の体験を積み重ねることで、子どもは大きく成長します。体調を整えて、毎日、時間に間に合うように通園することが大切です。 • 子どもの成長を共に喜び、「〇〇をよく頑張っているね」と認めてあげましょう。 <p style="text-align: right;">健康な心と体 自立心</p>

5歳児2学期(9月~12月)

生活する力

発見・考え・表現する力

かかわる力

具体的な幼児の姿	園での姿	教師のかかわり
生活の中で必要な仕事の内容が分かり、友達と進んでしようとする		<ul style="list-style-type: none"> 新しい生活のグループをつくり、友達関係が広がるようにする。 当番活動やグループ活動などで、自分からすることを見付けたり、グループの友達と声をかけ合ったり、力を合わせたりしている姿を認める。
思い切り体を動かして遊びながら、自分なりのめあてをもって取り組んでいく		<ul style="list-style-type: none"> 学級(学年)のみんなで、運動遊び(鬼ごっこやリレー、マットや鉄棒など)をする機会をつくり、教師も一緒に体を動かして、楽しさを共感する。 一人ひとりの力が十分に発揮できるよう役割分担やチーム分けなどに配慮し、頑張りを十分に認める。
友達に考えやイメージを伝えたり、受け止め合ったりしながら、一緒に遊びを進めることが楽しくなる(しかし、ぶつかり合いもある)		<ul style="list-style-type: none"> 友達同士の主張のぶつかり合いでは、気持ちに寄り添い、話し合いの時間を確保し自分たちで解決できるように働きかける。 話したい気持ちを受け止め、個々に聞いたり、振り返りの機会を設けみんなで話題にしたりする。 「…だから」「○○を…しよう」など、理由を添え、助詞や接続詞を使った話し方を促していく。
遊びや生活の中で、数量や文字に関心をもつようになる		<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中で数を数える、量を比べる等を通して数量の感覚が豊かになるよう、意識した環境を構成する。(グループの数、チームの人数、コートの広さ) 生活の中で、文字を書いて伝えたり、読んだりして、話し言葉と文字が一致していくようにする。
行事の中で役割を受けもち、意識して行動し、自分たちでやり遂げた満足感や喜びを感じる		<ul style="list-style-type: none"> 自分(自分たち)の役割や仕事に分かって、取り組んでいる姿を十分に認め、周囲に伝えるようにする。(運動会の係、会の司会、遠足のペアなど) 友達と一緒に活動したことのよさを味わえるようにする。
きまりやルールを守って遊ぶ		<ul style="list-style-type: none"> 生活のきまりや遊びの中でのルールなどを守ることが、みんなが気持ちのよい生活を送ることにつながるという、きまりの必要性を感じながら生活できるようにする。

<幼児期の終わりまでに育ってほしい姿>

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

*家庭で配慮していただきたいことの欄に□で記載しているのは、幼稚園教育要領等に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」です。この姿は特に5歳の後半以降に見られるようになる姿で、一つの目安です。子どもの発達には個人差があり、全員に一樣に見られる姿ではありませんが、各家庭で、いずれこのような姿につながることを意識するようにしてください。

予想される家庭での姿	家庭で配慮していただきたいこと
	<ul style="list-style-type: none"> •家の手伝いや簡単な仕事を任せ、家族の一員として役に立つことの喜びを味わえるようにしましょう。 •生活のグループが変わることは、友達との関係を広げるきっかけとなります。子どもが友達よさや得意な面を見付ける姿を、認めていきましょう。 <p style="text-align: right;">自立心 □ 協同性 □ 社会生活のとの関わり □</p>
	<ul style="list-style-type: none"> •勝敗のある遊び(リレー遊び、助け鬼など)では、勝って嬉しい、負けて悔しい、負けるからやりたくないなど、様々な感情体験をします。とても大切な経験なので、頑張っていることや挑戦していることを十分に認め、後押ししてあげましょう。 <p style="text-align: right;">健康な心と体 □ 道徳性・規範意識の芽生え □</p>
	<ul style="list-style-type: none"> •その日の出来事や思ったことを、親子で話す時間つくりましょう。 •子どもの顔を見て話したりうなずきながら聞いたりして、気持ちのやりとりを楽しむ会話をしましょう。話しをしたい気持ちが膨らんでいきます。 <p style="text-align: right;">言葉による伝え合い □</p>
	<ul style="list-style-type: none"> •絵本の読み聞かせを通して、絵の魅力を楽しみながら、美しい言葉の響き、言葉のおもしろさや意味、正しい言葉の使い方など、言葉に対する感覚を豊かにしましょう。 •紙は揃えて置く、同じ種類のをを集めて置く、など積極的に整理整頓を心がけ、分類、整理などを通して、物の特質や数量の感覚を豊かにしましょう。 <p style="text-align: right;">数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 □ 豊かな感性と表現 □</p>
	<ul style="list-style-type: none"> •学級の中には、いろいろな個性をもつ子どもがいます。それぞれの子ども(友達)の得意なことに目を向けられるよう、話題にしましょう。「○ちゃん、お話が得意なのね」「△ちゃん、あいさつがとても上手」等と話しかけ、大人が個性を認める姿勢を見せていきましょう。 <p style="text-align: right;">協同性 □</p>
	<ul style="list-style-type: none"> •家の約束はきちんと決め、悪いことをした時には行動を叱り、諭すようにしましょう。 •どうすればよかったのか、なぜ約束が必要なのかを自分で考えさせるようにし、叱った後は、ゆったりと気持ちを受け止めてあげましょう。 <p style="text-align: right;">道徳性・規範意識の芽生え □</p>

5歳児3学期(1月~3月)

生活する力

発見・考え・表現する力

かかわる力

具体的な幼児の姿	園での姿	教師のかかわり
日々の生活に見通しをもっている		<ul style="list-style-type: none"> 一日の生活や生活発表会、修了式までの計画を幼児と一緒に立てたり、カレンダーに記入し、掲示したりして、幼児が日々の生活に見通しをもって行動できるようにしていく。 片付けや集合時、食事の場面で時計を使いながら、時間の感覚や意識を育てていく。 「あと5分しかないから、急ごう」 「まだ30分あるからもう少し、遊べる」 幼児に、自分で活動の区切りを付けたり、気持ちを切り替えたりすることを促す。
園生活すべてを知り尽くした達成感や満足感をもっている		<ul style="list-style-type: none"> これまで幼児が好きだった遊びを思い切り楽しみ、存分に園での遊びができるよう時間を確保する。 幼児が主体的に行動している姿などを認め、自信につなげていく。 修了式に向けた活動では、ふさわしい態度を意識し、ほどよい緊張感をもって取り組めるようにする。
学校のことが話題になり、うれしかったり、不安がったりする		<ul style="list-style-type: none"> 周囲の様子から「学校」に対するプレッシャーを感じることがあるので、学校見学を通して学校の雰囲気を知り、気持ちを和らげるようにする。 保育園・幼稚園と小学校との違いを発見し言葉にしている姿を認め共感する。
文字や数への興味関心が、さらに高まる		<ul style="list-style-type: none"> 文字や数字を遊びの中で進んで使ったり、グループで競い合って遊んだりする機会をつくる。(カルタ作り・すごろく作り・コマ挑戦カード・得点表 など) 生活や遊びの中で、文字や数の必要性や便利さに気付くことができるような活動を、継続して行い、幼児に任せる部分を増やしていく。(出欠調べ当番、会の招待状やお礼状)
学級のみみんなで心を通わせ、取り組むことの一体感を感じる		<ul style="list-style-type: none"> 互いの良さに目を向けたり気付いたりできるような機会を大切に、友達と認め合いながら、心をつなげて共通の目的に向けて取り組むことで、充実感や達成感につなげる。
自分に自信をもっている		<ul style="list-style-type: none"> 学級の中で、友達同士、認め合う関係づくりを大切に、一人ひとりが自信をもって生活できるようにする。

<幼児期の終わりまでに育ってほしい姿>

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

*家庭で配慮していただきたいことの欄に□で記載しているのは、幼稚園教育要領等に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」です。この姿は特に5歳の後半以降に見られるようになる姿で、一つの目安です。子どもの発達には個人差があり、全員に一樣に見られる姿ではありませんが、各家庭で、いずれこのような姿につながることを意識するようにしてください。

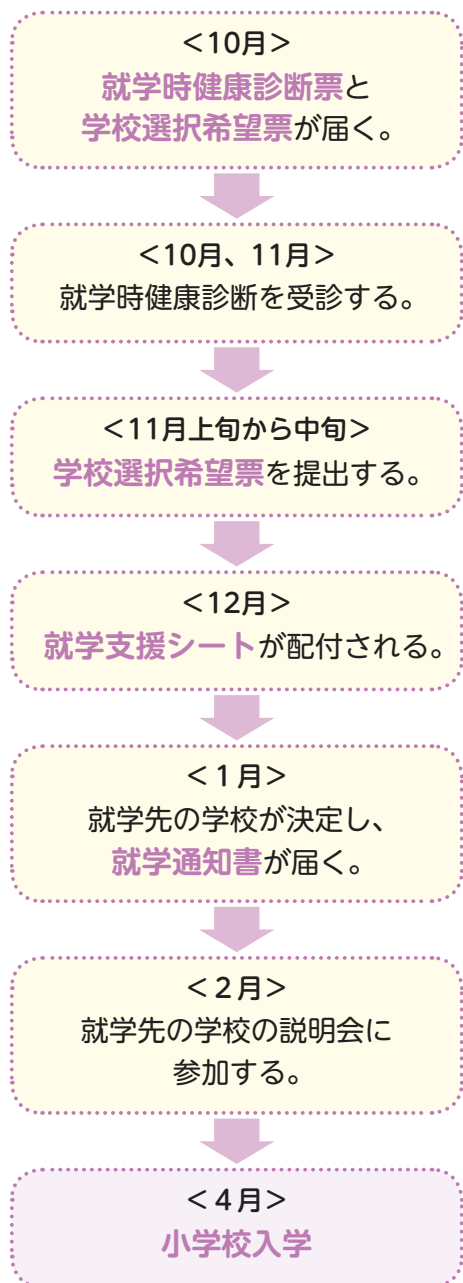
予想される家庭での姿	家庭で配慮していただきたいこと
	<ul style="list-style-type: none"> 安定した生活リズムをつくるため、起きる時刻、家を出る時刻、寝る時刻、お風呂に入る時刻などを決めて生活するようにしましょう。 カレンダーに予定を記入したり、「あと〇日で、発表会だね」など話題にしたりして、見通しをもって生活できるようにしましょう。 「ご飯の準備を一緒にしよう。何が必要かな」など自分で考えて行動することを促す働きかけを、家庭でもやってみましょう。 <p style="text-align: right;">健康な心と体</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 小学校は園と同じように子どもを大切にしてくれる場所であることを伝えましょう。自分は大切にされている、という安心感が、情緒の安定や他人を大切にする気持ちにつながります。 「大きくなったね」「難しいことにもあきらめないうで挑戦するなんてさすがだね」などの言葉をかけ、幼児が自分の成長を感じ、自信をもって生活できるようにしましょう。 <p style="text-align: right;">自立心 社会生活のとの関わり</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 通学路を一緒に歩いてみましょう。 進学の嬉しさとともに不安を感じる子どももいます。「〇〇しないと1年生になれませんか」という言葉は使わないようにしましょう。 学校のことを話題にしながら新しい生活を楽しみにできるような言葉をかけましょう。 子どもの話をよく聞くようにしましょう。「聞き上手」「話させ上手」になりましょう。 <p style="text-align: right;">社会生活のとの関わり</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 文字や数への興味が広がる環境をつくりましょう。 例 入学準備に向け、50音表を見ながら自分の名前を書いてみるなど 手紙を書いたり、買い物やお手伝いをしたりする時など、単位や値段、看板などを話題にし、実体験を通して数や量、文字に興味をもてるようにしましょう。 <p style="text-align: right;">数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 行事への取組など学級のみならずみんなで取り組むことで味わう充実感や達成感、子どもにとって大事な経験です。是非、家庭でも話題にしましょう。多少、困難なことがあっても「大丈夫!みんなの力を合わせると、どんなことでもできるね」と、気持ちを後押ししましょう。 <p style="text-align: right;">協同性</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長を「こんなことができるようになったんだね」「心も体も大きくなったね」「みんなと仲良く過ごせてよかったね」などと言葉にして伝え、自信をもって小学校へ入学できるようにしていきましょう。 <p style="text-align: right;">自立心</p>

2 特別な配慮を必要とする子どもの支援

小学校入学を控えた保護者の誰もが、我が子への期待とともに不安を抱えています。特別な配慮を必要とする幼児とその保護者が安心して就学の準備を進められるよう、また小学校入学までの見通しがもてるよう、区のシステムやサポート体制、相談窓口など、就学に関する情報提供をしておくことが必要です。

保育園・幼稚園・認定こども園は、日頃から、一人ひとりの幼児の特性に応じて支援の内容を見直すとともに、それまでの支援の経過や、支援した結果の変容の姿などを整理し、小学校と情報を共有し、園での支援を小学校へとつなげていくことが大切です。

小学校入学までの見通し



保育園・幼稚園・認定こども園の基本的な姿勢

- 個人面談や保護者会等で、5歳児年間計画などを示し、5歳児の生活に見通しをもち充実して過ごせるようにします。
- 日頃から、保護者と子どものことを話題にし、保護者が悩みや相談等をしやすい雰囲気を心がけます。

就学支援シートの活用(例)

- 就学支援シートは、特別な支援を必要としないにもかかわらず、園と保護者と学校が、幼児やその関わり方の共通理解を図り、幼児が安心して学校生活を楽しめるようにするものです。
- 就学支援シートを作成することは、「保護者の思いを小学校に伝える」という大事な意味があります。この視点をもつことが保護者の自己効力感や安心感につながります。
- 就学支援シートは、幼児の現状の表出行動を簡潔に書き、困難なことばかりを羅列しない、的確に幼児の発達の姿を伝える、推察で書かない、など、記入に際して十分に配慮します。
- 保護者と園とで、幼児のとらえ方に相違点があった場合は、互いの思いを確認し合います。しかし違いが解消しなくても、そのまま提出してよいものです。
- 特別支援アドバイザーなどと一緒に作成することもできますので、ケースに応じて専門家の協力を得ることもできます。



(1) 就学までの準備【保育園・幼稚園・認定こども園が行うこと】

① 幼児への支援

当該幼児の支援にあたっては、教員や保育士が幼児の特性を知った上で環境の構成や支援の内容について理解をするとともに、当該幼児が学級の中で、友達と気持ちよく過ごせるようにすることが大切です。

就学の時期は、一人ひとりの発達をとらえ直す意味でも重要な時期です。問題点ばかりを気にするのではなく、よい部分、得意な部分を増やしていくことが大切です。苦手なこと、してほしくないことは何かなどを把握した上で、当該幼児の自信や意欲につながるよう、定期的に支援の内容を見直し、支援を固定化しないことも必要です。

また、友達と一緒に考えたり協力したりする遊びを計画的に取り入れ、自分の気持ちに折り合いをつけたり、友達のよさに気付いたりできるようにし、幼児同士が互いに認め合い、どの幼児にとっても楽しい園生活となるような学級経営をすることが大切です。

② 保護者への支援

特別な配慮を必要とする幼児の保護者と信頼関係を築いていくために、綿密な連携をとることが大変重要です。特に、子育ての悩みや不安、焦りなど、しっかりと受け止め、保護者の気持ちをよく聞き、共に子どもの成長を支えていくという姿勢を示していくことが大切です。

就学支援シート（P68 参照）は、5歳児に在籍する保護者全員に配付されるものです。就学支援シートの意図の理解を促すために、配付の際は、保護者会等を通して丁寧に説明することが必要です。

また、保護者が、就学先の小学校を決定するまでには、保育園・幼稚園は慎重な検討と対応が求められます。「通常の学級」か「特別支援学級（学校）」かという視点ではなく、当該幼児にとってどのような支援が必要なのかといった視点で、幼児の自立のために必要かつ効果的な支援と配慮が可能な教育環境を見付けられるよう、保護者に寄り添いながら支援していくことが大切です。

③ 関係機関との連携

当該幼児が、すでに医療機関や療育機関を利用している場合もあります。関係諸機関と連携を図り、情報を共有することで、効果的に支援を進めていくことが可能となります。小学校への引継ぎの際には、就学支援シートの作成に活用できます。

(2) 就学までの準備【小学校が行うこと】

① 就学時健康診断

小学校は、10月から11月にかけて就学予定の幼児を対象とした就学時健康診断を行います。各小学校では、健康診断や管理職（校長・副校長）との個別の面談等を通じて、一人ひとりの幼児を把握します。そこで配慮が必要な幼児について、入学までの校内体制について準備します。保育園・幼稚園・認定こども園等との就学に向けた連絡会の機会を通して必要な情報を得て、学級編制に役立て、受け入れ体制を整えます。

② 支援体制の整備

就学支援委員会や保護者からの就学支援シートの提出等を受けて、特別な配慮を必要とする幼児の受け入れにあたって、どのような支援がどの程度必要かを把握し、どのような対応をしていくかについて、丁寧に慎重な検討の積み重ねが必要となります。

小学校では、教室環境、授業の参加の仕方など、当該児童にとって生活全般が分かりやすいものとなるよう、工夫することが大切です。

就学支援シート

就学支援シート

豊かな学校生活を送るために

就学支援シートは、ご家庭や在籍園、療育機関等での生活の様子や支援の様子などを記入し、一人ひとりのお子さんの個性を小学校に引き継ぐためのものです。保護者の方が中心となって記入していただき、小学校へ直接お持ちください。

お子さんがこれまで身につけてきた力を十分に発揮し、小学校生活を楽しくスムーズに送っていただけるよう、ぜひご活用ください。

一緒に考えていきましょう

- 入学前の早い段階で、お子さんの様子を小学校に教えてください。
- ご家庭・園・小学校とで協力し、お子さんに必要な支援等について一緒に考えていくことができます。

作成は任意です

- 港区立小学校に就学予定で、作成を希望する保護者は、ご活用ください。すべての項目を記入しなくても結構です。
- お子さんについて「ここは伝えたい」というポイントを教えてください。

安心してお使いください

- この就学支援シートは、港区内の幼稚園・保育園で共通の様式を使用しています。
- お子さんや保護者のプライバシー保護にも十分注意しています。

保護者の方がご記入ください。

お子様のお名前	ふりがな	性別	入学年度	令和2年度
			生年月日	平成 年 月 日生
保護者のお名前	ふりがな	続柄	連絡先電話番号	
住所	〒 港区			

幼稚園・保育園・関連機関等の方がご記入ください。

作成機関名	記入年月日	令和 年 月 日
連絡先電話番号	記入者名	

港区教育委員会

1. 成長・発達の様子

	保護者記入欄 (すべての欄を記入しなくても結構です)	在籍園、関連機関記入欄 (記入者：) 別紙(様式不問)による提出も可能です。
性格・行動の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○好きなこと・得意なこと・興味・関心 ○苦手なこと ○性格・気持ち・行動の特徴(落ち着きのなさ、衝動性、パニック、かんしゃく、こだわり、気持ちの切り替え、注意・集中、感覚過敏等) ○気になる行動(指しゃぶり、爪噛み等) 	
学習・運動	<ul style="list-style-type: none"> ○ことば、文字 ○数(数を書くこと、ものを数えること等) ○身体の発達・動き(歩く、走る、跳ぶ等) ○手指の動き(鉛筆やはさみ、箸の扱い方、園用さ等) 	
人とのかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども同士のかかわり、相手の気持ちの理解等 ○集団への参加 ○コミュニケーションのとり方 ○集団場面での指示理解の程度(個別の声かけが必要等) 	
日常生活・健康	<ul style="list-style-type: none"> ○身支度、身辺自立 ○食事(偏食、食べ方、時間、形態等) ○排泄の自立 ○発作・服薬の有無 	

就学支援シートに関わる皆さまへ

<就学支援シートの作成・活用の流れ>

- 在籍園等、関連機関が行うこと
- ◎保護者の方が行うこと
- ◇小学校が行うこと

12月

- 各幼稚園・保育園・関連機関(以下、在籍園等)より、港区在住の年長児全員に就学支援シートを配布します。
- ◎港区立小学校に就学予定で、作成を希望する保護者のみ、就学支援シートを記入してください。
- ◎記入にあたっては、別紙「記入例」を参考にしてください。

12月～1月

- ◎保護者は記入後、在籍園等に就学支援シートをお渡しください。
- 就学支援シートを受け取った在籍園等は、所定欄を記入後、保護者の方にお返しください。

1月中旬(就学通知書が到着した後)～2月

- ※入学説明会等の機会もご利用ください
- ◎保護者が就学先の学校へ、就学支援シートを直接持参してください。
- ◎保護者が入学前に学校との面談を希望する場合は、提出時に小学校とご相談ください。

2月～3月

- ◇就学支援シートを受け取った小学校は、作成したIn籍園等に、受理したことを必ず連絡してください。
- ◇小学校は、就学支援シートの内容をもとに、必要に応じて個別面談の実施や個別指導計画等の作成をしてください。

☆就学支援シートは、お子さんの大切な個人情報です。受け取ったIn籍園等・小学校におかれましては、就学支援シートの取り扱いについて十分注意してください。

問合せ先 港区教育委員会事務局 学校教育部 学務課 特別支援相談担当
電話：03-3578-2738 FAX：03-3578-2759

2. これまで家庭で心がけてきたこと等 (保護者の方が記入してください)

3. これから学校生活において身につけてほしいこと、そのために家庭で行いたい工夫等 (保護者の方が記入してください)

4. これまでにお子さんのことで相談に行ったところ(病院、療育機関など) (保護者の方が記入してください)

5. これまで大切にしてきたかわりや指導方法の工夫、入学後の配慮事項等 (在籍園、関連機関の方が記入してください。別紙(様式不問)による提出も可能です。)